

プロジェクトレポート

サバイバルカレッジ「知恵の環」の取組み

——トライアル講座の実施と今後の展開に向けて——

神 谷 聡 子・神 吉 直 人

I. はじめに

本レポートでは、サバイバルカレッジ「知恵の環」のトライアル講座の取組みと、そこから見えてきた今後の展開について報告する。

本研究所が目指す成熟社会とは、「高水準の物質文明と共存しつつ、それに依存しない」「多様な価値観を認め、選択肢を自ら選び取る」「誰もがかけがえない人として成長できる」社会である。その実現のためには、一人ひとりが生きる力を養い、自立し、社会に目を向けることが必要である。本学の学生がそのような方向に歩んでいくことを支援するためのプログラムのひとつとして、「知恵の環」を企画した。以下は企画概要からの抜粋である。

現代の若者は、物質的な豊かさを享受し、高度に発達した情報社会を生きています。一方で生活スタイルや家族構成の変化、また豊富に用意された企業の製品やサービスに頼って生活することにより、失ったものも少なくありません。従来家庭や地域社会の中でごく自然に身につけていた暮らしの技術や生活の知恵を身に付けることが今では難しくなっています。また、グローバル化する社会の中で、自分らしく生きていくための新たな知恵や知識も必要となっています。（成熟社会研究所『「知恵の輪」企画概要」より）

このような問題意識から、失ってはいけないものや、今だからこそ必要なものを見極めること、およびそれらを身につけるためのプロセスを再構築することが不可欠であると考えた。その一環として、企業や団体等と連携し、若者自身が自分たちに必要な場を自分たちの手で創っていく仕組みを整えることが、このサバイバルカレッジ「知恵の環」の取組みである。

初年度である2015年度は、学生コアメンバーを募り、本格的な運営に向けてのトライアル講座を企画・実施した。本レポートでは、以下の順でその詳細について説明する。まず、第2節では、実際に行ったトライアル講座の内容を紹介する。第3節では、遡って、その前段階における学生コアメンバーの取組みについて述べる。そして第4節では、トライアル講座の成果と課題について考察する。最後に第5節では、課題を踏まえたうえでの、今後の「知恵の環」の展開について述べる。

II. トライアル講座の実施について

本格的な展開に先立ち、初年度はトライアル講座として小規模な取組みから始めることとなった。本研究所のイベント等に参加していた学生からコアメンバーを募り、4名の学生が企画から当日の実施・運営までに携わった。トライアル講座では、「暮らしに関わる経済」「情報収集」の観点から、「年金」をテーマに扱った（これらのテーマに至った経緯など、当日までの準備における取組みについては、第3節で述べる）。本節では、今回実施したトライアル講座の内容についてまとめる。

2-1. トライアル講座実施概要

- ・日 時：2016年2月17日（水）14:00～15:00
- ・場 所：追手門学院大学5号館4階5402教室
- ・講 師：公益財団法人日本経済研究センター
主任研究員 長町理恵子氏
- ・テーマ：生き抜くために学ぶ経済「あなたは現在の年金制度に賛成 or 反対？」
- ・参加者：学生14名（うち他大学1名）
※学生コアメンバー4名含む

なお、学生コアメンバーの構成は、経営学部経営学科2年男子1名、経営学部マーケティング学科2年女

子1名、経営学部マーケティング学科1年女子1名、地域創造学部地域創造学科1年男子1名である。

2-2. トライアル講座内容

(1) 〈第一部〉グループワーク「あなたは現在の年金制度に賛成 or 反対?」

参加者には、「年金について情報収集を行い、自分の意見をレジュメにまとめる」という事前課題を出した。当日は、参加者をA～Cの3つのグループに分け、グループワークを実施した(写真1)。まず、各自が事前課題として調べてきた資料を共有した。そして、テーマについて賛成か反対かの議論を行い、グループ内で意見をまとめ、発表した(写真2)。

表1 グループワークを踏まえての発表

グループ	賛成：反対	結論	理由
A	2:3	反対	・まだ働ける高齢者にも年金を支給しているから。 ・自分たちが高齢者になった時も年金を受け取れるよう、積立方式にしてほしいから。
B	1:4	反対	・現在の制度は賦課方式で、今の高齢者にとっては、支払った分より多く受け取れる計算になるが、自分たちが高齢者になった時は、300万円ほど損をする計算になる。少子化が進めば、このままでは制度が破綻しそうだから。
C	2:2	反対	・大御所芸能人など、年金無しでも生活できる人にまで支給されている。もっと必要な人にお金配分される仕組みを考えたほうが良いと思うから。 ・賛成意見としては、障害年金や遺族年金など、若者も支給対象となる可能性があり、明日どうなるかわからない状況の不安を解消できるから、という意見があった。

表1は、グループワークの内容を整理したものである。最終的に、すべてのグループが「反対」という意見にまとまった。

事前課題について考えるヒントとして、申込時に資料を3点提供していた。1点目は、年金制度の概要を理解するため、日本年金機構のパンフレット¹⁾である。そして日本経済新聞から、現役世代への恩恵としての遺族年金や障害年金を紹介した記事²⁾と、18歳選挙権の導入を前に、シルバー民主主義と呼ばれる現状を取り上げた記事³⁾の2点を選定した。できるだけ意見が偏らないことを意図し、メリット・デメリットの両面を示した記事であったが、参加者に「反対」と考えさせる要素が強かったようだ。事前課題に対する参加者の情報収集方法と精度に個人差はあったものの、お互いの情報を出し合いながら、活発に議論を行うこ

とができていた。



写真1 グループワークの様子



写真2 発表の様子

(2) 〈第二部〉講師による解説「年金について考える」

今回連携先として協力いただいた公益財団法人日本経済研究センターは、財政・金融・経済・産業・経営などの諸問題について、調査・研究をしている民間研究機関で、経済予測をはじめとした多くのデータを提供している。講師としてお越しいただいた主任研究員の長町理恵子氏は、「ワークライフバランス」「保育」「地域別女性就業率」などを研究テーマにしており、神戸大学ではデータ検索手法などについての授業を担当している。

第二部では、グループワークで自分たちなりの答えを出した参加者に対して、長町氏に年金制度についてさらに詳しく解説いただいた。長町氏へは事前に学生コアメンバーが要望をまとめて、年金制度の「個人の生活への影響」と「社会への影響」の両面からお話しいただくよう依頼していた。

表2 講師による解説「年金について考える」〈要約〉

内容	出所・資料
1. 年金とは	
●公的年金制度の種類 ・国民年金と厚生年金・共済年金の2階建て。 ●被保険者の種類 ・被保険者の種類は第1号～第3号までであり、学生は第1号、サラリーマン等は第2号、専業主婦等第2号の配偶者は第3号に該当。 ●公的年金加入者の内訳 ・公的年金加入者の内訳については、第2号被保険者が最も多い。 ●労働力人口の内訳 ・女性の労働割合が増えているが、非正規労働者が多い。第3号被保険者のうち、3割はパートタイム労働で、残りは専業主婦である。	・日本年金機構 HP : https://www.nenkin.go.jp/service/seidozenpan/yakuwari/20150518.html ・総務省「労働力調査（基本集計）」など
2. 個人の生活への影響	
●短時間労働者の被用者保険適用拡大 ・2016年10月に施行されることによって、個人の働き方や年金財政に影響が出る。 ・これまで第3号被保険者だった短時間労働者のうち、条件に当てはまる人は、厚生年金に加入することになる。それによって年金の負担者が増えると社会全体としてはメリットだが、実際には働かなくなる人が増える可能性もあるなど、専門家としても賛否両論ある。 ●第1号被保険者の産前産後の保険料免除制度の検討 ・制度導入のために、国民年金保険料を100円引き上げることが検討されている。これに関しては議論中で、様々な見解がある。 ●マクロ経済スライド ・マクロ経済スライド（社会情勢に合わせて年金の給付水準を自動的に調整する仕組み）が2015年4月に発動されたことにより、高齢者2,000人が支給減額で国を提訴した。一方、現役世代から見ると、デフレ下でも適用を検討すべきとの見解も多く、議論されている。	・厚生労働省「第89回社会保障審議会医療保険部会（平成27年10月2日）資料1『短時間労働者に対する被用者保険の適用拡大』 http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakai-hoshoutantou/0000099460.pdf ・第3回社会保障審議会年金部会（平成23年9月29日）資料2『マクロ経済スライドについて』 http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001q0wz-att/2r9852000001q122.pdf - など
3. 社会への影響	
●少子高齢化の影響 ・2010年には2.77人の生産人口で1人の高齢者を支えているのに対し、2060年には1.28人で1人を支えることになる。 ・支え手が減ると、1人あたりの支給額を下げるか、積立方式にするか、女性や高齢者など働き手を増やすしかない。 ●年金財政は維持できるのか ・厚生労働省では8パターンの経済前提をおき、見通しを立てているが、設定が甘いという批判もある。 ・年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が、年金財政の安定のために、年金積立金の管理及び運用を行うが、マイナス金利の影響なども受けている。 ●低い国民年金納付率 ・全体としては、納付率は改善しているが、25～29歳の納付率が52.96%と非常に低い。つまり、正社員で働いていない若者が多いということがわかり、個人だけでなく社会全体の問題といえる。	・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成9年1月推計、平成24年1月推計）」 - 厚生労働省「将来の厚生年金・国民年金の財政見直し（平成26年財政検証）」 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nenkin/nenkin/zaisei-kensyo/ - 厚生労働省年金局・日本年金機構「平成26年度の国民年金保険料の納付状況と今後の取組等について」（平成26年6月26日）資料2 http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000089763.html - など
4. 今後の課題	
・デフレ下での「マクロ経済スライド」適用 ・年金の積立方式移行への議論 ・マイナス金利下の年金財政運用 ・世代間格差の縮小	

※出所・資料や解説の内容は、2015年2月17日の講座開催時の情報である。

長町氏からは、解説を通じて、新聞記事や数字を鵜呑みにするのではなく、元データで確かめること、「賛成」「反対」を含め、いろいろな人の見解を見ることの重要性を伝えていただいた。どの項目についての解説も客観的なデータを引用しながらのものであり、参加者が今後自分で資料を作成する際のポイントなども示していただいた。

参加者からは、「偏った調べ方をしていたので批判的な意見しか持てなかったのですが、講師の先生の話や他の人の意見を聞いて、自分の意見を持つ際にはそれぞれの意見をよく知ってから考えることが大切だということがわかりました」など、自分の調べ方を振り



写真3 長町氏による解説の様子

返り、気づきを得たという意見があった。また、「制度に反対、何かを変えたいと思うなら、選挙に行くこと（現状は、若者の投票率が低いために、シルバー民主主義になっている）」という長町氏からのメッセージも参加者に響いていたようである。

2-3. 参加者アンケートより

参加者に対して事後アンケートを実施し8名から回答を得た。回答数が少ないため、定量的に処理することはできないが、参考となる意見をまとめる。

表3 参加者アンケート（回答数8名）

項目	回答
回答者の属性	男子5名・女子3名 1年生7名・2年生1名
満足度	今回「知恵の環」に参加することで何か新しい知恵・知識が得られましたか？ ・とても得られた：3名 ・得られた：5名 ・あまり得られなかった：0名 ・得られなかった：0名
	次回「知恵の環」に参加したいですか？ ・是非参加したい：2名 ・テーマによっては参加したい：4名 ・時間が合えば参加したい：1名 ・参加したくない：1名
今後の開催について	参加しやすい時間帯はいつですか？ ・平日の授業後：1名　・土曜日の午後：1名 ・日曜日・祝日：1名　・長期休暇中：5名
	今後、知りたいと思うテーマは何ですか？ 選挙権／マイナンバー／環境問題／税制度／自分たちに直接関係のあること／日本経済の展望について／マイナス金利政策における影響について／遺産相続／税金

(1) 満足度

・「今回『知恵の環』に参加することで何か新しい知恵・知識が得られましたか？」という問いに対しては、全員が何らかの知恵・知識を得たと回答した。

・「次回『知恵の環』に参加したいですか？」という問いに対しては、「テーマによっては参加したい」という回答が最も多かった。今後の開催においては、若者自身が持っている問題意識に応えるなど、テーマ設定が重要だと言える。

(2) 今後の開催について

・「参加しやすい時間帯はいつですか？」という問いに対しては、「長期休暇中」が最も多かった。今回のトライアル講座の実施が長期休暇中だったことが、この回答に影響していると見られる。なお、この時点では、授業時間内での開催は想定していなかったため、

選択肢に「授業時間内」は含まれていない。

・「今後、知りたいと思うテーマは何ですか？」という問いに対して自由記述で回答を得たところ、「経済」に関連するものが多かった。これは、今回の講座の内容に影響を受けていると考えられる。

(3) 感想（自由記述）

〈主な自由記述・一部抜粋（肯定的意見）〉

- ・全く考えたことがなかった年金のことだが、今年で20歳を迎え、関わってくる事柄なので、自分で考える機会ができ、知らなかった知識も増え、今後のためになったことがよかった。
- ・私自身、議論の場といったものに参加した経験が少なく全てが新鮮で、有意義な時間を過ごせたと強く感じています。
長町様のデータをもとにされた見解や主張は、大変わかりやすいだけでなく、論理的で勉強になりました。
- ・（事前課題では）偏った調べ方をしていたので批判的な意見しか持てなかったのですが、講師の先生の話や、ほかの人の意見を聞いて、自分の意見を持つ際にはそれぞれの意見をよく知ってから考えることが大切だとわかりました。

肯定的意見としては、「年金に関する知識が得られた」ことや「グループでディスカッションをする経験」への評価が目立った。また、「物事の一面だけを捉えて判断してはいけないということに気づいた」といった内容もあった。

〈主な自由記述・一部抜粋（否定的意見）〉

- ・準備不足ということもあり、内容についていけない場面があった。年金という大きな観点からみると様々な問題があり、テーマにぐらつきがあった。グループでの話し合いの時間も短く感じた。

否定的意見は、学生コアメンバーが反省点として挙げた内容と概ね同様であった。

Ⅲ. 学生コアメンバーの取組みについて

トライアル講座の企画から当日の実施・運営までの主な作業は、学生コアメンバーが行った。コアメンバーは、それまでに成熟社会研究所のイベント等に参加していた学生や成熟社会研究所の教員のゼミ生等を中心に行った募集に対して、自主的に集まった学生たちである。途中、メンバーの入れ替わりがあり、最終的に前述の4名の学生がトライアル講座に携わった。

今回の取組みは、研究所にとっても新たな試みであ

った。そのため、学生に与える課題があらかじめ準備されておらず、課題そのものを定めるところから、学生と研究所のメンバーと一緒に試行錯誤しながら進めた。学生コアメンバーの取組みと研究所の取組みを明確に分けることは難しいが、ここでは、学生コアメンバーの取組みを中心に整理する。

3-1. 企画・準備段階の取組みについて

(1) テーマ設定

まずは、研究所主催で、学生コアメンバーにヒアリングを行う形のミーティングを実施した。この段階では、ある程度テーマが絞りやすいように、研究所側からおおまかな枠を例示した。この時には、「食」や「コミュニケーション」、一人暮らしをする時のための「家事」のことなどについて、意見が集まった。

次のミーティングからは、学生コアメンバーが主体となって進行し、彼ら自身が身の回りのことや暮らしのことなどで、どんなことを身につけたいか、どんなことが自分たちに足りていないかについて話し合った。そこで、「リスク社会を自らの力で生き抜いていける人になりたい」という方向性が決まった。その後、数回のミーティングを重ね、これに対応するテーマとして以下のような意見がまとまった。

- ・「食」：食事作法・旬の食材・野菜の目利き・食の安全性・災害時の食
- ・「四季と作法」：四季に合わせた日本の暮らし・旧暦や年中行事
- ・「コミュニケーション」：手紙や案内状の書き方・メールのマナー・言葉遣い・立ち居振る舞い
- ・「情報／経済」：新聞の読み方・生活に関わる経済の知識
- ・「体」：身体の使い方・力の抜き方・自分の身体のメンテナンス・呼吸法・睡眠
- ・「家事」：エコそうじ・衣替え・家のメンテナンス・「捨てる」こと

この中から、コアメンバーの関心が特に高かった「食」と「情報／経済」の2つのテーマについて、実施を検討していくこととなった。

そして、トライアル講座では、進捗の早かった「情報／経済」のテーマを扱うこととなった⁴⁾。このテーマに関しては、生活者の視点での経済の知識や、情報収集の仕方が身についておらず、いざという時に正しい判断ができるのか、という問題意識が挙げられ、暮らしに関わりの深いところから「経済」を考えることとなった。

そこから、「自分たちがこれから生きていくためには、いくらぐらいお金がかかるのか」、「給料から税金や保険料が引かれるが、手元にはいくら残るのか」など身近な例について掘り下げていった。その中で、20歳から国民年金に加入するにあたり、自分たちが年金制度や年金の使い道などについてどのくらい知っているのかを省みたところ、全員に共通して、ほとんど知らないという事実が浮かびあがった。そこで、トライアル講座のテーマを「年金」に設定した。

さらに、一般学生の興味を引き、参加しやすいようなタイトルを検討し、「あなたは現在の年金制度に賛成 or 反対？」という問いかけの形に至った。

(2) 講座の構成

トライアル講座では、テーマである年金について知ると同時に、その過程で「情報収集」の仕方を身につけることも目標とした。これは、講師を依頼した長町氏が、情報収集の技術に長けていることが、事前に情報として与えられていたことによる。

講座の内容に関しては、コアメンバーから「話を聞くだけでなく、実践を重視したものにしたい」という意見が多く出た。それを念頭に置いて構成を考え、最終的には、「グループワーク→発表→解説→復習（情報収集の実践）」という流れで行うこととなった。そして、自分たちが実施したい内容に即して、実施時間

知恵の環 トライアル授業「生き抜くために学ぶ経済」	
テーマ：「あなたは現在の年金制度に賛成か or 反対か？」 日付：2月17日（水曜日） 14:00~15:30 場所：5号館4階 5402教室	
時間	内容
14:00 (数分)	説明：初めに授業説明、講師の先生の紹介等をさせていただきます。
説明が 終わり次第 (20分)	話し合い：まず、学生コアメンバーが中心となります。賛成・反対の人数を聞いた後、時間を割り当てて各意見を聞き合います。いろんな意見を聞きあつた後、発表前に再度賛成・反対のアンケートを取ってください。（意見を聞いて変わるかもしれないため）
14:25 (15分)	発表：各班の発表者が①賛成・反対者の人数②どんな意見があつたかを手短かに発表してください。各班の持ち時間は1〜3分です。
14:40 (40分)	解説：日本経済研究センター長町さまから、「個々の、または社会的観点から見た現在の年金制度によるメリット・デメリットと情報収集の仕方をレクチャーしていただきます。受講生はこの後、復習をするのでメモなど忘れずに。
15:20 (10分)	復習/質疑応答：実際に教わったことを、パソコンを用いて復習・学んだことを再度共有します。また、質問のある方はこの時間に。
15:30 (数分)	終わりに
課題について	トライアル授業終了後、アンケートフォームのURLをメールで送信します。①今日学んだこと②感想③アンケートを2月20日（土曜日）中に入力してください。
※スクールバスは 15:40、または 16:30 をご利用ください。	

図1 学生コアメンバー作成の講座の進行表

や場所なども検討した。しかし、本番は時間が足りず、復習の時間を取ることができなかった。

(3) 事前課題の設定

進行について考える過程で、研究所メンバーからのアドバイスとして、「グループワークの際に、参加者がテーマについてある程度情報を持っていないと、話し合いにならないのではないか」という意見を投げかけた。それを受けて、参加者に「テーマに対する意見と、その根拠となる理由を調べて、A4用紙1枚にまとめる」という事前課題を与えることが決まった。

前述のように、ある程度の共通認識を持つための情報として、学生コアメンバーが収集した資料(3点)も申込者に送ることとなった。これらを収集するために、コアメンバーは年金事務所へ行ったり、新聞記事を検索、検討したりした。また、自分たちも事前課題を作成し、当日担うことになるグループワークの進行をイメージした。



図3 学生コアメンバー作成の事前課題レジュメ②

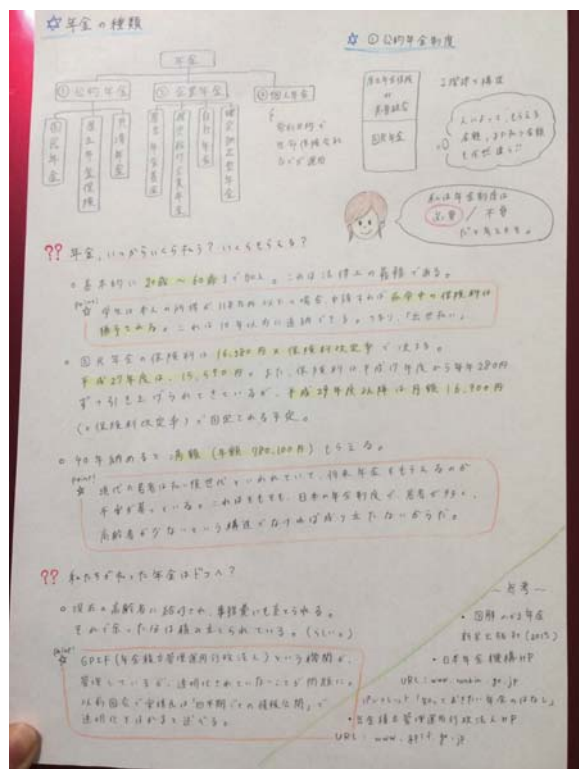


図2 学生コアメンバー作成の事前課題レジュメ①

(4) 講師との調整

講師の長町氏とは、学生に会う前に一度研究所のメンバーのみで、続いて所員の神吉と学生コアメンバーの1名(2年生・女子)が日本経済研究センターのオフィスに出向き、それぞれ打ち合わせを行った。その後は、学生コアメンバーが神吉の指導のもと、長町氏と直接にメールでやり取りし、細かい点を調整していった。メールでの調整内容は、トライアル講座の趣旨の説明、当日の進行、解説の内容についての依頼等であった。テーマ設定の段階で彼らが習得することを望んだ項目には「メールのマナー」もあったが、担当した学生は「スキルアップにつながった」と自信を得ていた。

(5) 広報

広報については、学内でのチラシ掲示、および UNIVERSAL PASSPORT での通知に加え、立命館大学大阪いばらきキャンパスにもチラシ掲示を行った。また、学生コアメンバーは各自の知人に告知した。

使用したチラシの作成も学生コアメンバーによる。掲載項目を学生コアメンバーで話し合い、デザインは各自がパワーポイントを用いて作成した。それらを持ち寄り、その他の案もあわせて検討し、最終的に図6のデザインにまとまった。

サバイバルカレッジ
知恵の環
生き抜くために学ぶ経済

インターネットの普及に伴い、時・場所を問わず情報収集が容易になりました。しかし、私たち大学生は、一般常識と呼ばれる物事の多くを知らなかったり、言葉で説明出来ないことがあります。年金制度もその1つです。今回は年金制度について話し合い、日本経済研究センターの연구원の方から新聞記事や統計データを用いたリサーチの手法を教わります。

日時：2016年 2月17日(水) 14:00~15:30

対象者：学生
参加費：無料
会場：学校法人 追手門学院大学 5号館 5402教室
大阪府茨木市西成2-1-1 (JR茨木駅、阪急茨木駅 13:10 発 スクールバス にご乗車ください)
プログラム：

1. グループディスカッション 2. 講義

年金制度に賛成？ 反対？

事前課題

なぜ賛成？なぜ反対？
その根拠は？
リサーチの方法は？

講師：長町 ○○○
(ながまち ○○○)
日本経済研究センター○○○研究員

各種統計データや資料を用いた経済予測と提案を行っている日本経済研究センターの長町○○○氏をお招きし、大学生にとって将来の備えとなるような知見に関するデータ収集の方法や着眼点、レポートのまとめ方について教えていただきます。今回は年金制度がテーマです。

お申込みはこちらまで！
締切：2月15日(月)

主催：成熟社会研究所 (担当：中川)
TEL. 06-6948-5835
seijuku@otemon.ac.jp

(※申込先着順・定員 20名)

図4 学生コアメンバー作成のチラシ案①

2016年2月17日(水)
14:00~15:30

サバイバルカレッジ
知恵の環
～生き抜くために学ぶ経済～

テーマ：「あなたは現在の年金制度に賛成or反対？」

講師：公益財団法人 日本経済研究センター
主任研究員 長町 理恵子氏
(ながまち りえこ)

対象者：学生(他大学生も参加可能です。)
参加費：無料
会場：5号館4階 5402教室
(大阪府茨木市西成2-1-15
* JR茨木駅、阪急茨木駅
13:10 発 スクールバスにご乗車ください。)
事前課題：「現在の年金制度に賛成か反対」の根拠となる理由を、資料を用いて調べてきてください。
A4用紙1枚にまとめること。
詳細はメールで送ります。

参加者募集中！ お申し込みはコチラまで！
(※切：2月15日)

生き抜く力を身に付ける 知恵の環
若者の 若者による 若者が生きるための学校

主催：成熟社会研究所 (担当：中川)
TEL. 06-6948-5835
seijuku@otemon.ac.jp
協力：公益財団法人日本経済研究センター
https://www.facebook.com/otemon.seijuku
追手門学院大学は2016年に創立50周年を迎えます

図6 学生コアメンバー作成のチラシデザイン(確定)

サバイバルカレッジ
知恵の環
Vol.0 「年金は必要か否か」

2016年 2月17日
14:00~15:30

参加費：無料(定員20名)
会場：追手門学院大学
(スクールバス JR茨木/阪急茨木駅 13:10 発)
5402 教室
対象：大学生
課題：事前学習
(「年金」に関する情報を集める。)

情報収集が容易になった現代社会を生き抜くために役立つ、中立で正確な情報収集法を日本経済研究センター(JOER)の長町理恵子氏によるレクチャーで身に付ける。そのレクチャーを通して、今回は「年金」をテーマに学ぶ。

あなたがもらえる年金はいくらですか

年金がなくなるとどうなるの？
いつから、いくら支払うの？

参加者募集中！ お申し込みはコチラまで！
(※切：2月15日)

生き抜く力を身に付ける 知恵の環
若者による、若者の、若者が生きるための学校

主催：成熟社会研究所 (担当：中川)
TEL. 06-6948-5835
seijuku@otemon.ac.jp
https://www.facebook.com/otemon.seijuku
追手門学院大学は2016年に創立50周年を迎えます

図5 学生コアメンバー作成のチラシ案②

チラシ作成の段階では、本格的な活動開始から約6ヵ月が経っており、ミーティングの議題なども自分たちで設定し、役割分担などもスムーズに行うことができるようになっていた。

3-2. 講座当日の運営について

(1) 会場設営・受付

会場内の掲示物やグループワークの席の設営、受付名簿・名札の作成やグループ分けなどを学生コアメンバーが行った。参加者からは「会場が窮屈だった」という声があり、グループワークの際には、ゆとりを持ったスペースの確保が必要だという反省点も挙げられていた。

(2) 司会進行

当日の司会進行は、学生コアメンバーの1名(2年生・女子)が行った。彼女が自ら作成し、研究所メンバーが校正した台本を用いた。

(3) グループワーク運営

3つのグループに、それぞれ1~2名の学生コアメンバーが入り、ファシリテーションを担当した。どのグループも活発に議論が行われていたが、コアメンバーの振り返りからは「賛成意見が自分1人、他の参加者が全員反対意見で、事前準備が甘かったためあっさ

サバイバルカレッジ 知恵の環

～生き抜くために学ぶ経済・トライアル授業報告レポート～



「知恵の環」とは・・・?

戦後70年、私たちの生活はとても便利で快適になりました。その一方で、暮らしの知恵、助け合い、地域交流など・・・失ったものも沢山あります。今日の快適さの中で育ってきた私たちは、生きていくために知っておくべき常識をどのくらい知っているのでしょうか？

大人と若者、企業と大学、教える人と教わる人が互いに学び合いながら、少しずつ環を広げ、結びつき、新しい知恵を生み出し、この変動するリスク社会を自らの力で生き抜いていこう、ということから立ち上がったのがこのサバイバルカレッジ「知恵の環」です。

発行
追手門学院大学
成熟社会研究所
「知恵の環」学生コアメンバー

- 1 -



テーマ：あなたは現在の年金制度に賛成or反対？
実施日：2月17日（水曜日）14:00～15:30
場所：5号館4階 5402教室

私たちの多くは大学卒業後、企業に就職し働き、そして給料をもらいます。しかし給料からは事前に所得税や保険料などが天引きされます。年金も給料から引かれるものの一つであり、その金額もなかなか大きいんです。納税後、手元にいくら残るでしょうか？年金は20歳になれば支払わなければならない義務の一つ・・・社会人になる前に知っておけば、しっかりと対策をとることができると思いませんか？

今回、私たちは「あなたは現在の年金制度に賛成or反対？」をテーマにし、トライアルの授業を開催しました。他大学も含め約20名の学生が参加し、意見を出し合いました。

実践内容
①説明：授業説明、講師の先生の紹介等を行いました。
②話し合い：各自予習した知識をポストイットに書き出して、意見を出し合い、賛成・反対意見双方の立場からディスカッションを行いました。
③発表：各班の発表者が賛成・反対者の人数、どんな意見があったかを発表しました。
④議論：日本経済研究センター・長町さまから、「個々の、または社会的観点から見た現在の年金制度によるメリット・デメリット」と情報収集の仕方とレクチャーしていただきました。
⑤復習/質疑応答：実際に教わったことをパソコンを用いて復習し、学んだことを再度共有しました。

講師紹介
公益財団法人 日本経済研究センター
主任研究員 長町 理恵子 氏
(ながまち りえこ)

各種統計データや資料を用いた経済予測と提言を行っている日本経済研究センターの長町理恵子氏をお招きし、大学生にとって将来の備えとなるような知恵に関するデータ収集の方法や着眼点、レポートのまとめ方について教えていただきました。

話し合い(みんなの意見)
A 賛成意見
・予測できない将来に対して備えるため。
・障害年金は若者にも関係がある。
・いざという時の備えである。
B 反対意見
・縦溝方式によって働いているものへの負担が今後、より大きくなる。
・積み立て方式にすべきだ。
・政府が打ち出した案では解決されない。
・年金制度を改善すべきだ。
・高齢者の働ける社会をつくっていくべきだ。
・年金が必要でない人にも支給されている。

- 2 -



講義内容

講師の長町さまからは、「年金とは」、「個人の生活への影響」、「社会への影響」、そして「年金の今後の課題」の4点について講義していただきました。

年金制度の種類と仕組み、短時間労働者の労働基準の改正、少子高齢化・年金納税率の低下による財政維持の危機などの問題や、世代間格差の縮小など今後の課題について、データに基づいて説明いただきました。また、情報の適切な調べ方・見方を教わりました。

まとめ

参加者のうち、講義を始める前は年金に対して興味・関心のある人が少数でした。実際、「自分たちは学生だから関係がない」、「まだ先の話だ」と思っている学生がほとんどではないでしょうか。

講師の長町さまには講義を通して、年金が実際の若者のうちから関係があることを教えていただきました。例えば、「障害年金」や「遺族年金」など、いざという時のために備えておく必要があることがわかりました。少し難しい話ではありましたが、自分たちの問題だという意識が芽生え、より関心を持つようになったように思えました。

今後の予定

「知恵の環」第1回は6月下旬の開催を予定しています。第1回は経済に関するテーマを扱う予定です。そして現在知恵の環では、学生メンバーを募集しています。知恵の環を通して授業を作る楽しさを感じてみませんか？チラシやパンフレットの作成などを通してPCのスキルアップもできます。また、先生や先輩、他大学の学生ともつながりが生まれます。いつも明るく楽しくミーティングをしていますので気になった方は是非一度お気軽に遊びに来てください！参加希望、お問い合わせは成熟社会研究所 (seijuku@otemon.ac.jp) まで！

学生・知恵の環スタッフの一言

学生だからといって、受け身にならず積極的に取り組んでいきます。
経営学部 3回生 平本 希香

前進あるのみ！で取り組んでいきたいと思っています。
経営学部 3回生 古田 尚

挑戦することを忘れず、よりよいプロジェクトにできるよう取り組んでいきます。
経営学部 2回生 大野 祐希

- 3 -

アンケート結果

今回、「知恵の環」に参加することで何か新しい知恵・知識を得られましたか？
(8件の回答)
(人数)

参加者の感想

全く考えたことがない年金のことだが、今年で20歳を迎え関わってくる事柄なので、自分で考える機会ができ、知らなかった年金の知識も少し増え、今後のテーマにつながったことが良かった。(2回生・男性)

参加を決めた時、正直あまりテーマに興味は持てなかったが、いざ始まってチームで話し合いをしてみると楽しかった。それぞれの話を聞いていると、自分の誤ったことはほんの狭い一部分でしかなく、それだけで物事の良し悪しを決めつけるのも良くないと思った。私たちが同年代の人からしたら年金なんてまだまだ先の話で、関係ないと思われがちだし、それも良く分かるけど、だからこそそのうちから興味を持って知っていかないといけないなと気づかされた良い機会でした。(2回生・女性)

参加者募集中！ お申し込みはコチラまで！

生き抜く力を身に付ける
若者の
若者による
若者が生きるための学校

主催：成熟社会研究所（担当：中川）
TEL.072-665-5068
seijuku@otemon.ac.jp

協力：公益財団法人日本経済研究センター
f https://www.facebook.com/otemon.seijuku

■追手門学院大学は2016年に創立50周年を迎えます■

- 4 -

図7 学生コアメンバー作成の報告レポート

り反対意見に寝返ってしまった」や「時間配分がうまくいかなかった」といった報告があり、議論をうまく回しながら自分の意見も主張していくには、慣れが必要であることがうかがえた。

3-3. 実施後の取り組みについて

(1) アンケート集計

講座終了後の時間が少なく、当日にアンケートを回収することができなかったため、回収率を上げる工夫が検討された。春休み期間中であつたので、後日持ってきてもらうことは現実的ではなく、また、ワード等のデータをメールで提出するとなると、めったにパソコンを開かない人も多いことが指摘された。

そうした議論の結果、オンラインフォームでアンケートを作成し、スマートフォンからも回答できる方法を採用した。最終的に10名中8名から回答があつた。集計もフォーム上でできるため、すぐに結果を共有することができた。

(2) 報告レポート作成

トライアル講座の集大成として、学生コアメンバーは報告レポートの作成にも取り組んだ。記載する項目や構成の案を出し合い、パワーポイントで形にした。何度か研究所メンバーで校正を戻し、彼らも工夫を重ねる中で、見やすいものに仕上がった(図7)。

3-4. 学生コアメンバーの振り返りより

(1) トライアル講座の内容に関する反省点

トライアル講座の内容そのものに対しては、2つの反省点が挙げられた。1点目は、90分の中に二部構成を盛り込んだため、議論、解説ともに時間が十分でなかったことである。そのため予定していた復習(実践)の時間を取ることができなかったことが惜しまれる。「欲を言えば、解説を聞いた後、学生同士でさらに意見交換する時間もほしい」という声もあった。「次回以降開催する際は、学生だけで議論する回と講師による解説の回のように、実施日を分けてもいいのではないか」という意見も挙げられた。

2点目は、テーマ設定が広すぎたため、事前課題で各自が調べた内容も散漫になり、議論がかみ合わない部分があつたことである。この点に関しては、講師の長町氏からも同様の意見があり、「学生たちが年金のどの部分に興味があるのかをあらかじめ絞って講師に伝えておくことで、より有意義な解説をすることができる」との助言をいただいた。参加者の関心を確認し、テーマを絞り込むためにも、講座を2回に分ける

ことは有効であるという意見にまとまった。ただし、2回連続で行うことは参加者にとってハードルが上がるため、広報や実施時期等の工夫も必要になる。

(2) 準備期間を含め、全体を通しての反省点・感想

この点についても、2つの反省点が挙げられた。1点目はスケジュール管理である。取り組みの前半は、あまり活動が活発でなく、講座開催の2ヵ月前あたりから、慌てて動き出した感があつた。「その分、緊張感や勢いがあって良かった」という感想もあつたが、次回からはやるべきことを逆算してゆとりを持ったスケジュールを組むこととなった。

2点目は、ミーティングの進め方についてである。学生コアメンバーは4人という少人数にもかかわらず、意見を出す人が限られていた。終盤には、ある程度うまく進むようになったものの、活発な議論はなかなかできなかった。個々人が主体性を発揮すると同時に、初期段階から「ミーティングに参加する際には各自が意見を考えておいたり、資料を準備したりすることが必要である」という反省点が挙げられた。

(3) 学生コアメンバー自身の成長実感について

感想からは、「意識の高い学生たちが集まることで話し合いも楽しく、深くでき、おもしろい意見も聞くことができるので、自分の知識がより広がったように感じた」など、トライアル講座の機会が自身の成長につながったという意見があつた。また、「会議への参加、チラシの作成、講師の方へのメールなど、なかなかできない経験ができて、スキルアップできたと思う」など、運営に携わることによる効果も挙げられた。「ミーティングの運営やスケジュール管理など、他の取り組みで生かしている」という声もあった。

IV. トライアル講座を実施して

4-1. 学生による企画・運営の成果と課題について

(1) サポートが必要だったこと

今後、「知恵の環」を学生たちがより主体的に活動し、成長する場としていくために、考え得る改善点を2点挙げる。1点目は目標の明確化である。「知恵の環」の目的は、研究所から学生コアメンバーに伝えており、おそらく共有できていた。しかし、具体的にいつどこで何をどのように実施するのかなど、その都度の目標を探りながら進むことになったため、学生たちにとっては動きにくかったかもしれない。

ミーティングの議題や締切の設定などは、中盤まで研究所側が行っていた。トライアル講座の形が見えて

からは、学生自身でミーティングを運営できるようになったことを踏まえると、早い段階である程度の目標を枠組みとして示し、その中で学生たち自身が課題を見つけて動けるように持っていくことの必要性が考えられる。一方で、目標自体を学生自身で設定できるに越したことはなく、どこまで研究所メンバーが関与するかは難しいところである。

2点目はチームビルディングである。メンバーの出入りがあったため、情報量の違いや温度差が生じていた。その結果、一部のメンバーに負担が集中してしまった。時には、欠席者へのフォローなどを研究所メンバーが行うこともあった。最初の段階で、メンバー同士がお互いに協力し合える関係性を築けるよう、コミュニケーションをサポートすることも必要となってくる。

(2) 学生の成長

今回、ゼロからの取組みの中で、学生コアメンバーはもがきながら努力した。特に最後の2ヵ月の追い込みでは、ミーティングやオンライン上のグループウェアでのやり取りが活発になり、議事録の作成、やるべきことの洗い出し、役割分担など、仕事を進める上で必要な力が身につけていったように感じた。また、チラシや報告レポートの作成を通してパワーポイントのスキルを習得し、アンケートフォームもやり方を理解して使いこなすことができていた。

さらに、「事前に自分で調べ、ある程度の知識を持っていると、こうも理解の深まり方が変わってくるものなのだ」ということを全体の雰囲気から感じる事ができた」という意見に代表されるように、自ら講座を企画し、実施することで、授業を作る側の視点に気づき、授業を受ける姿勢も見直すことにつながったようである。そして、最後の反省点や改善点を自分たちで導き出したことには、成長を感じた。自分たちでゼロから作りあげたという経験が、彼らにとって今後の自信となることが期待される。

4.2. 講座の成果と課題について

「知恵の環」のねらいには、テーマについて議論を深めることと同時に、「プロセスを再構築する」ことがある。今回のテーマでは、「情報収集」のプロセスがポイントであった。参加者には、事前にテーマについて調べるという課題を出したが、参加者の情報収集は、「インターネットの検索エンジンでキーワードを検索し、出てきた記事をピックアップする」という方法がほとんどであった。

長町氏の講義では、データに裏付けされた情報が数多く示され、「元データにあたる」ことの重要性が強調された。具体的には、内閣府や総務省、厚生労働省などが出している統計情報や審議会資料を調べることや、日経テレコン21などのデータベースを活用して新聞記事を検索することについてご教示いただいた。同じインターネット上の情報であっても、このように確かなソースにアクセスすることによって、信憑性の高いデータを得ることができる。手軽に何でも検索できる現在だからこそ、有意な情報を選び取る力が求められる。この力は、普段の生活に限らず、大学でレポートや論文を書く際にも必要となる。

参加者からは「データを示すことの重要性に気づいた」という感想もあり、自らの情報収集能力を見直す機会になったことは成果と言える。この点に関して、参加者に対して講座の冒頭にねらいを強調して伝えることで、さらに意識的に学び取ってもらうことが次回以降の課題である。

また、「知恵の環」では、企業や団体等に次世代育成による社会貢献、および若者との意見交換の場として参画いただくことを目指している。しかし、今回のトライアル講座では、企業側（日本経済研究センター・長町氏）から一方的に提供していただくことがほとんどとなってしまった。この点も今後の課題として残る。

V. 今後の展開について

以上のように、この取組みには、企画・運営に携わった学生コアメンバーの成長、および当日の参加学生の新たな視点（気づき）という形で一定の成果があったと考えられる。

トライアル講座の実施を踏まえて、「知恵の環」のフレームワークが見えてきた。【自分で考える（調べる）】⇒【学生同士で議論し、共有する】⇒【答え合わせ（企業等からの講義・解説）を通じて新しい知恵に触れる】⇒【実際にやってみて、自分のものにする】という講座の流れは、以後も継続していきたい。

今後の実施にあたって課題となるのは時間の確保である。講座を2回に分けるなど、当日の開催時間にゆとりを持つことや、準備段階での学生コアメンバーの定期的な活動時間を確保するなど、様々な場面で検討が必要である。今回、学部・学年の違うメンバーの予定を合わせることに特に難しかった。時間割の編成や学生の登下校に要する時間など制約条件がある中で困

難な課題であるが、学生にとってタイムマネジメントの練習になるという側面もあるため、意識的に取り組んでいきたい。

時間的制約を踏まえつつ、より効果の高いプログラムを実施するための対策として、2017年度は正課科目として展開することを予定している。具体的には、成熟社会研究所の所員でもある村上亨教授が担当するプロジェクト科目⁵⁾として開講する。履修生は授業の中で、若者向けの講座の企画を行い、連携先企業等と話し合いを進めながら、最終的に一般学生向けの講座を開催することになっている。なお、募集の際に学生がイメージしやすいように、事前に「食」というテーマを設定した。前節までに示してきた課題や改善点についても、正課科目として実施する中で常に意識し、解消することをめざす。そして、さらに新しい視点から講座を展開できるよう、成熟社会研究所のメンバーが引き続き関わり、支援していきたい。

注

- 1) 日本年金機構「知っておきたい年金のはなし」https://www.nenkin.go.jp/pamphlet/seido-shikumi.files/0000000011_0000028374.pdf
- 2) 「年金の恩恵、現役世代にも」『日本経済新聞』（2015年8月19日付）
- 3) 「政治新潮流 18歳選挙権－民主主義、変化の風」『日本経済新聞』（2016年1月1日付）
- 4) この段階で、前述の長町理恵子氏に講師を依頼することも決まった。
- 5) 本学の基盤教育科目の中のひとつ。地域の企業や団体などさまざまな人々とかかわり合いながら、社会にある正解のない課題についてチームで取り組み、最適な解決方法を見つけ、実行するゼミナール科目である。毎年さまざまなテーマで開講している。2017年度の「知恵の環」は、「企業等と連携した講座企画プロジェクト」というテーマで展開することとなった。